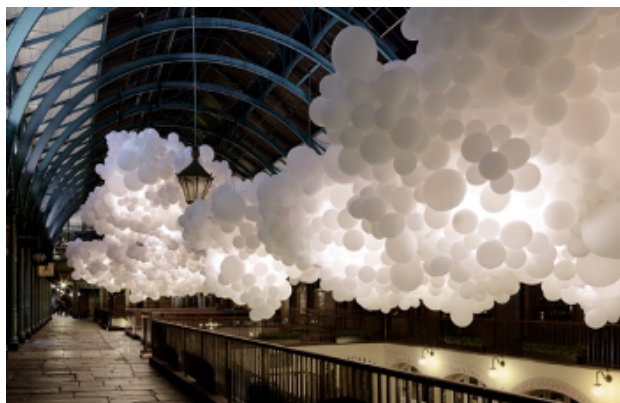


3 年ぶりに待望のオールナイトが復活！ 「六本木アートナイト 2026」プログラム発表

日程：2026 年 10 月 31 日(土)～11 月 1 日(日)

「RAN Focus」ではフランスを特集！
ヨアン・ブルジョワ・アートカンパニーやシャルル・ペティヨンの作品など
多彩なプログラムが六本木の街を彩る

六本木アートナイト実行委員会は、六本木の街を舞台にしたアートの祭典「六本木アートナイト 2026」を、2026 年 10 月 31 日(土)17:00 から 11 月 1 日(日)6:00 にかけてオールナイトで開催いたします。今年はずいに、日没から夜明けまでアートを楽しむオールナイト開催が3年ぶりに復活！美術館や文化施設、大型複合施設、商店街など六本木全域を舞台に約 60 のプログラムを展開します。



土曜の日没から日曜の夜明けまで眠れない一夜が帰ってくる！

© Pascale Cholette

今回の六本木アートナイトの最大の見どころは、「RAN Focus」であるフランスが誇る選りすぐりのパフォーミングアーツの数々。世界中を魅了するヨアン・ブルジョワのカンパニーは、トランポリンや回転する舞台装置を巧みに使ったファンタジックで浮遊感漂う2つの作品を展開。彫刻家で舞台美術家でもあるイヴァン・クレダとココ・プティピエールは、近代絵画に頻繁に登場する「水浴」のシーンを生き生きとユーモア溢れるパフォーマンスで表現します。数多くのバルーンを素材にしたサイトスペシフィックな作品で世界各地を発表の場とするシャルル・ペティヨンと、段ボールを用いた巨大な建築物を六本木の住民とともに作り上げるオリヴィエ・グロステットのインスタレーションも必見です。

その他、日本人アーティストや海外アーティストのプログラムも多数ご用意しています。いずれも単なる展示にとどまらず、五感を使って体感し、身体を動かして参加するといった来場者の行為そのものを作品体験へと変えていきます。六本木の街を舞台に非日常の濃密な体験を朝までお楽しみください。

＜本件に関するお問い合わせ先＞

六本木アートナイト広報プロモーション事務局（サニーサイドアップ内）

担当：岩崎（080-4149-8178）、小西（080-7637-4510）、吉野

TEL：03-6894-3200 FAX：03-5413-3050 E-mail：roppongiartnight_pr@ssu.co.jp

■ プログラムリスト

No.	カテゴリ	作品名/企画展名	アーティスト名	会場
1	RAN Focus	和(WA)	シャルル・ベティヨン (Charles Pétillon)	六本木ヒルズアリーナ
2		みんなで作る巨大段ボール建築	オリヴィエ・グロステット (Olivier Grossetête)	六本木西公園
3		オープニング (Opening)	ヨアン・ブルジョワ・アートカンパニー 芸術監督および振付: ヨアン・ブルジョワ 出演: アンナ・バーガー	六本木ヒルズアリーナ
4		パサージュ (Passage)	ヨアン・ブルジョワ・アートカンパニー 芸術監督および振付: ヨアン・ブルジョワ 出演: イヴォンヌ・スミンク	東京ミッドタウン ガレリアゲート前
5		水浴 (The Bathers)	クレダ&プチピエール (Clédat & Petitpierre)	東京ミッドタウン プラザ1階、街なか
6		Bluff (ブラフ)	レイラ・カ (Leila Ka)	六本木ヒルズアリーナ
7		Les Indes Galantes Morgestraich Elegies	クレマン・コジトール (Clément Cogitore)	六本木ヒルズアリーナ
8		予兆 (Presage)	イシャム・ベラダ (Hicham Berrada) 客演: エーティエヌアール	六本木ヒルズアリーナ
9	六本木ヒルズ	オノゴロ・ストーンⅢ	森 万里子	六本木ヒルズ ウェストワーク2階
10		Libido (リビドー)	UxU Studio	六本木ヒルズ ノースタワー
11		シャンデリア	キム・ソンヘ	六本木ヒルズ ヒルズカフェ/スペース
12		エクトラスチック・パレーテ	リローイ・ニュー	六本木ヒルズ 66プラザ
13		A Light for the After-Human Stage 気配はもう一度、生まれる	横井壽 クリエイティブテクノロジーリスト: 小林あつし 照明デザイナー: 舟越利紗 制作協力: テレビ朝日	毛利庭園
14		無題	井口直人	六本木ヒルズ ノースタワーアートボード
15		studio FLAT Art supported by L'Oréal Japan	studio FLAT (スタジオフラット)	六本木ヒルズ ウェストワーク2階
16		フローラ - 都市の糸 (Flora - Au Fil des Villes)	権井小百合、装飾花監修: 中島みゆき	六本木ヒルズ ハリウッドビューティプラザ 1階 ショーケース
17		フクオカラダ・ROOT:根	出演: アオイヤマダ 音楽: 小野龍一 衣装: ひびのこづえ	六本木ヒルズアリーナ
18		Window of Tomorrow	アオイツキ(アオイヤマダと高村月) ATSUSHI 亀山淳史郎	六本木ヒルズ ローズガーデン
19		蛸みこし	野口竜平 × Octopus ∞ Projects	六本木ヒルズ 66プラザほか
20		ー	六本木ヒルズ展望台 東京シティビュー	東京シティビュー (六本木ヒルズ森タワー52階)
21	森美術館	「森万里子: 燦爛」	ー	森美術館 (六本木ヒルズ森タワー53階)
22		「MAMプロジェクト035: プリー・ルエイ」	ー	森美術館 (六本木ヒルズ森タワー53階)
23		「森アートアワード2026 グランプリ受賞記念展: 片山真理」	ー	森美術館 小企画展示室 (六本木ヒルズ森タワー53階)
24	東京ミッドタウン	Human Landscape in MIDTOWN	中崎透	東京ミッドタウン プラザ1階 キャノピー・スクエア
25		胡桃カラス	長谷川仁	東京ミッドタウン プラザ1階
26		Camouflage Prints	柴田まお	東京ミッドタウン ミッドタウン・ガーデン
27		「一周まわる」六本木アートナイト2026 ver.	さとうくみ子	東京ミッドタウン プラザ1階 キャノピー・スクエア
28		都市で祭りは可能かvol.04 「作り装い舞い折る」	TAMA DESIGN UNIVERSITY Division of PLAY DESIGN (多摩美術大学 有志学生、高橋慶成、坂井治、遊舞舎)	東京ミッドタウン ミッドタウン・ガーデン (予定)
29		2026年度ファイナリスト TOKYO MIDTOWN AWARD 2026 EXHIBITION	TOKYO MIDTOWN AWARD 2026 ファイナリスト	東京ミッドタウン プラザB1
30		GOOD DESIGN EXHIBITION 2026	ー	東京ミッドタウン・ホール、東京ミッドタウン・カンファレンス、 東京ミッドタウン・デザインハブ、アトリウム
31	国立新美術館	交差的な未来のためのコンセプト・フラッグ	ロドリグス=伊豆見・彩	国立新美術館 正面前口前(屋外)
32		「ルーヴル美術館展 ルネサンス」	ー	国立新美術館 企画展示室1E
33		「少女漫画・インフィニティ 萩尾望都×山岸涼子×大和和紀 三人展」	ー	国立新美術館 企画展示室2E
34		「第119回 日展」	ー	国立新美術館 展示室 1A、1B、1C、1D、2A、2B、2C、2D、3A、3B
35	サントリー美術館	「逸翁美術館コレクション 蕪村・呉春と茶の湯の名品」	ー	サントリー美術館展示室
36		夜の呈茶席 (仮称)	ー	サントリー美術館6階茶室「玄鳥庵」
37	21_21 DESIGN SIGHT	「方丈記に学ぶ-生きるを編み直す小さな建築-」	ー	21_21 DESIGN SIGHTギャラリー1&2
38	六本木街なかプログラム	現在地 feat.六本木アートナイト	奥山 太貴	六本木交差点
39		I WAS MADE FOR LOVING YOU	サエボーグ	ラビロス六本木
40		A Dark Night	Mikiko Kamada (展示協力: 株式会社LEP、大阪大学 産業科学研究所)	ピラミデビル
41	オープンコール・プロジェクト 採択作品	Deep Space Journey (ディープ・スペース・ジャーニー)	OORT (オールト)	六本木ヒルズアリーナ
42		寝相	Co.山田うん	東京ミッドタウン プラザ1階
43		風景とともに	鈴木ユキオプロジェクト	東京ミッドタウン プラザ1階、六本木ヒルズアリーナ
44		『うきふね』現代サーカス作品	うきも-project-	東京ミッドタウン プラザ1階、六本木ヒルズアリーナ
45		DANCE IS BREATHING	tamanaramen	TOHOシネマズ 六本木ヒルズほか
46		たった一本のコントラバスで紡ぐリアルタイム多重録音のパフォーマンス	BASSE PLANTE (ベースプラント)	六本木ヒルズ ウェストワーク2階ほか
47		歌う地球	国歌ジュークボックス KENT	街なか各所
48		life:cycles	epow6oow (モグモード)	街なか各所
49	その他	インクルーシブ・アート・プログラム	ー	六本木アートナイト会場各所
50		英語ガイドツアー: 光と影のフラヌール (都市観察者)	ー	六本木アートナイト会場各所

■ RAN Focus[France]

シャルル・ペティヨン

《和(WA)》

『Wa The Circle (和)』は、存在の二面性——儚さと永遠、静と動、個と全体——についての視覚的なメディテーションです。直径6メートルの白い風船で作られた2つの浮遊する円で構成されたこのインスタレーションは、調和、統一、そして時間の周期を象徴する「和」や「輪」を想起させます。

上の円は、永遠、目に見えぬもの、そして息吹を体現しています。これらの風船は軽やかさと記憶の不可解さを提示し、時間そのものを超越していきます。

下の円は、儚さ、手に触れられるもの、人間の世界とその物質性を象徴しています。風船は、壊れやすく移りやすい、存在の儚い美しさを思い起こさせます。

2つの円の間に広がる空間は神聖な「空白」であり、静かな熟考へと誘う場所です。この「間」は日本美学において大切にされている概念であり、あらゆる可能性が立ち現れる間隔であり、意味に満ちた一瞬の静止なのです。

- 日時：詳細はウェブサイトにて掲載予定
- 場所：六本木ヒルズアリーナ

インスタレーション



シャルル・ペティヨン (Charles Pétillon)

1973年生まれのシャルル・ペティヨンは、写真作品や大型のサイトスペシフィックなインスタレーションで知られる現代アーティストです。公共空間のための作品制作を頻繁に委託されるほか、ギャラリーや美術館でも定期的に展覧会を開催しています。

オリヴィエ・グロステット

《みんなでつくる巨大段ボール建築》

建築的要素と参加型のアプローチを融合させた、壮大で型破りなアートプロジェクト。子どもから大人、シニア世代まで、年齢やバックグラウンドを問わず、さまざまな人々が参加できます。制作に使用するのは、段ボール箱と粘着テープのみ。日本の建築に着想を得た構造物を、クレーンや重機などの機械は一切使わず、人々の共同作業によって立ち上げていきます。完成する作品は、高さ10メートルを超えます!!

- 日時：詳細はウェブサイトにて掲載予定（参加応募方法含む）
- 場所：六本木西公園

インスタレーション



オリヴィエ・グロステット (Olivier Grossetête)

1973年パリ生まれ。日常に詩性や夢をもたらし、社会や物理の法則を問い直す作品を手がけています。行政文書を用いたコラージュや「詩的オブジェクト」の制作をはじめ、段ボールによる巨大建築プロジェクトを展開。世界5大陸で300以上の建造物を地域住民と協働制作し、建築の象徴性や人と人とのつながり、世界との関係性を探究しています。

■ RAN Focus[France]

ヨアン・ブルジョワ・アートカンパニー

芸術監督および振付：ヨアン・ブルジョワ、出演：アンナ・バーガー

《オープニング (Opening)》

フィリップ・グラスの楽曲『Opening』の運動性に着想を得たこの作品は、どこにも辿り着かない階段を用い、上昇と下降を繰り返しながら、人間の存在における軌跡をシンプルかつ力強く表現しています。そこでは、可逆性をめぐる遊びによって、時間のクロノロジーが破綻させられます。

見えない隔たりの上で、ある登場人物が虚無をすり抜け、重力と無重力の法則を巧みに操りながら、平衡と不平衡の狭間にある

「自由の境地」へと到達しようと試みます。

この視覚的詩編の中心となるのは、「宙吊りの点」へと向かう、心を揺さぶるような眩暈を誘う進行です。それは、身体が到達しうる最高点まで登り詰め、しかしまだ

回避不能な落下が始まってはいない、あの精密で儂い一瞬のことなのです。



© Pascale Cholette

●日時：詳細はウェブサイトにて掲載予定

●場所：六本木ヒルズアリーナ

ヨアン・ブルジョワ・アートカンパニー

芸術監督および振付：ヨアン・ブルジョワ、出演：イヴォンヌ・スミンク

《パサージュ (Passage)》

「扉」という象徴に紐づく多角的な解釈を探索する作品です。

その象徴が持つ様々なイメージや連想を真に共鳴させるため、ヨアン・ブルジョワは一連のつながり合うジェスチャーのネットワークを組み上げた作品を考案しました。

それらの動きは、扉が開く旋回運動を増幅させる装置へと接続されており、その装置自体も回転するプラットフォームの上に設置されています。

この二重の円運動が生み出す催眠的なスパイラルは、終わりのない無限の動き、すなわち永続的な開閉を可能にしています。



© Léonard de Serres

●日時：詳細はウェブサイトにて掲載予定

●場所：東京ミッドタウン ガレリアゲート前

芸術監督および振付：ヨアン・ブルジョワ (Yoann Bourgeois)

出演：アンナ・バーガー (Anna Berger)、イヴォンヌ・スミンク (Yvonne Smink)

ヨアン・ブルジョワは、異なる芸術的アプローチの境界線を打ち破ることに挑み続けています。

彼の独自のメソッドは、唯一無二の現象を際立たせる物理的な「通路」として具現化され、それが彼を膨大なバリエーションの空間構想や、無限に広がる動きの変化へと突き動かしています。彼の作品世界は、生涯をかけて留まることなく続けられる創造プロセスの結実であり、彼はそれを「到達不能なサスペンション・ポイント」という言葉で表現しています。

数々の著名な振付家との共演を経て、ブルジョワは2010年に自身のカンパニーを設立しました。

2016年から2022年にかけてはグルノーブル国立振付センター (CCN2) の芸術監督を務め、フランスに19ある国立振付センター (CCN) のトップにサーカス・アーティストとして初めてディレクターに就任。

徹底してマルチディシプリナリー (多角的なジャンルを融合させる) で、身体的かつ革新的な表現を追求するブルジョワは、世界各地でパフォーマンスやコラボレーション、ワークショップを手がけています。彼の作品は、周囲の環境が持つエネルギーや固有の特性を活かした、その土地ならではのサイト・スペシフィックな創作に基づいています。

クレダ&プチピエール

《水浴 (The Bathers)》

「水浴 (The Bathers)」は近代絵画においてしばしば描かれてきた題材です。本パフォーマンスは、それを活気あふれるユーモラスな形で再解釈した作品です。プリーツ加工を施したチュール生地で全身が作られた、ボーダー柄の水着を着た大きな2体の人形カップルが、まるでビーチにいるかのように振る舞います。

日光浴をしたり、のんびり寛いだり、遊んだり、水浴客特有のさまざまなポーズをとる2人。青い2枚の大判タオルと黄色のチュール製ボールの傍らでゆったりと動くその姿は、海や太陽という存在を、素朴で無邪気に呼び覚ましているかのようです。

- 日時：詳細はウェブサイトにて掲載予定
- 場所：東京ミッドタウン プラザ1階、街なか

パフォーマンス



Photo : deb-fong

クレダ&プチピエール (Clédats & Petitpierre)

1986年より共同制作を行っています。私生活においても芸術活動においてもパートナーである彼らは、彫刻家、パフォーマー、振付家であり、人間の身体が絶えず変容し動き続ける唯一無二の作品群を生み出してきました。彼らのパフォーマンスはダンスと視覚芸術を融合させ、出演者が鮮烈な変身を遂げる夢想的で詩的な世界を創り出します。彫刻家であり舞台芸術家でもある2人は、展覧会、ギャラリー、美術館、公共空間、そして劇場といった領域の境界線を曖昧にしていきます。彼らは、自ら作品の内部に入り静かなパフォーマンスによって生命を吹き込む「アクティベティッド・スカラプチャー（可動する彫刻／起動された彫刻）」という概念の先駆者となりました。

レイラ・カ

《Bluff (ブラフ)》

レイラ・カ初の群舞作品『Maldonne』は、パリ・オリンピック劇場での完売公演をはじめ、コロンビア、アメリカ、セルビアに至るまで、3年間にわたり世界ツアーを続けています。

『Maldonne』の短縮版として誕生したのが《Bluff》です。ステージ上では、4人の女性たちが、舞い上がり、輝き、はじけ、弾み、床を引きずり、そして崩れ落ちるドレスを身にまとって舞います。眩い光を放ち、抑圧し、あるいは反逆するドレスと格闘する身体を通して、「女性性」のあり方を探求しています。

- 日時：詳細はウェブサイトにて掲載予定
- 場所：六本木ヒルズアリーナ

パフォーマンス



Photo : Duy-Laurent Tran

レイラ・カ (Leïla Ka)

ビヨンセ、セザール賞授賞式、ザホ・デ・サガザン、そしてチリ国立バレエ団などの振付を手がけています。アーバン・ダンスとコンテンポラリー・ダンスからの影響を取り入れながら、彼女はわずか数年で自身を象徴する独自のスタイルを確立しました。

ストリート／アーバン・ダンスの世界に足を踏み入れた彼女は、本格的なダンス教育を受けることなくマギー・マランのオーディションに合格。マランの名作『May B』のダンサーとしてキャリアをスタートさせ、自ら振付を手がけるようになります。初期のソロおよびデュエットの3作品は世界的な成功を収め、20カ国以上で上演されました。初の群舞作品『Maldonne』はわずか数カ月で世界的な現象となり、パリ・オリンピック劇場でのチケット完売公演をはじめ、コロンビア、アメリカ、セルビアに至るまで、この作品は3年間にわたり世界ツアーを続けています。

イシャム・ベラダ

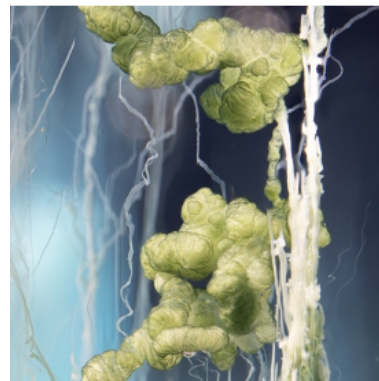
客演:エーティーエヌアール

《予兆 (Presage) 》

水槽の中で化学的に活性化された水中の風景を映像化する作品群であり、まるで私たちの世界から遮断された密閉された小さな世界のようなようです。水溶液に浸された鉱物によって創り出されるこれらの世界において、アーティストは生み出したい色や形に応じて、あらゆる成分を駆使していきます。今回は日本人アーティストのエーティーエヌアールが参加し、音楽面でリアルタイムにコラボレーションしながら、作品をライブで創り上げます。

- 日時：詳細はウェブサイトにて掲載予定
- 場所：六本木ヒルズアリーナ

パフォーマンス



Hicham Berrada

イシャム・ベラダ (Hicham Berrada)

1986年カサブランカ生まれ。フランスのパリとルーベを拠点に活動しています。科学的なアプローチを取り入れるイシャム・ベラダの作品は、直感と知識、そして科学と詩情を融合させています。2023年にはメヌール (Mennour) ギャラリーにて個展を開催。2024年にはドイツ・ジンデルフィンゲン市立ギャラリーにて個展「Aléas (アレア/偶発性)」が開催されました。2020年にマルセル・デュシャンにノミネートされました。

エーティーエヌアール (atnr)

東京を拠点に活動する音楽家。イシャム・ベラダのパフォーマンスに呼応しながら、フィールドレコーディングの音、電子音、楽器音を組み合わせるサウンドパフォーマンスを演奏します。映像の変化や空間の気配を受け取りながら、その場で音を生成し視覚と聴覚が影響し合う関係と、瞬間ごとに現れる新たな時間感覚を探ります。

クレマン・コジトール

《Les Indes Galantes》

クレマン・コジトールは、ジャン＝フィリップ・ラモーが1735年に作曲したオペラ・バレエ『レ・ザンド・ギャラント』の一場面を、1990年代にロサンゼルスで生まれたダンス、クランプのダンサーたちによって翻案しました。クランプの激しい身体表現とバロック音楽を組み合わせ、ラモーの作品を現代的に再解釈しています。

クレマン・コジトール

《Morgestraich》

本作で、コジトールは幼少期に参加したバーゼル・カーニバルにオマージュを捧げています。午前4時、街中の灯りが消えると、奏者たちが笛と太鼓の音とともに群衆の間を行進します。コジトールは、冬から春へ、死から生への移行を示すこの行列を時間と空間から切り離し、不確実な時代にコミュニティを結びつける古くからの儀式を問い直しています。

映像上映



作品：Les Indes Galantes

■ RAN Focus[France]

クレマン・コジトール

《Elegies》

何百もの小さな光る画面が、人の海の上に浮かんでいます。コンサートの観客たちが、画面の枠外にあるシーンを携帯電話で撮影しているのです。不在の歌の字幕のように、あるいは姿なき語り手の心の声のように、ライナー・マリア・リルケの『ドゥイノの哀歌』の一節が、デジタルな儀式を思わせるこの巨大で集団的なエネルギーの波に刻まれていきます。

- 日時：詳細はウェブサイトにて掲載予定
- 場所：六本木ヒルズアリーナ

クレマン・コジトール (Clément Cogitore)

1983年コルマル生まれ。パリとベルリンを拠点に活動。フランス国立現代芸術スタジオ「ル・フレノワ (Le Fresnoy)」で学んだ後、クレマン・コジトールは現代美術と映画の交差点で自身の芸術的実践を展開させていきました。映画、映像作品、インスタレーション、写真を融合させながら、コジトールは人間と自らが生み出すイメージや表象との「共生のかたち」を問うています。儀式性、集団的記憶、聖なるものの具象化、そして異世界同士の浸透性（つながりやすさ）に対する特有の視点は、彼の作品における主軸となっています。コジトールの作品は、パレ・ド・トーキョー、マドレ美術館（ナポリ）、ポンピドゥー・センター（パリ）、ICA（ロンドン）、世界文化の家（ベルリン）、ローマ現代アート美術館、ニューヨーク近代美術館、ボストン美術館、ケベック国立美術館、SeMAバンカー（ソウル）、紅磚美術館（北京）、クンストハウス・バーゼルラントのほか、リヨン・ビエンナーレ、ベルリン・ビエンナーレ、横浜トリエンナーレといった国際展でも上映・展示されてきました。

■RAN Focus とは

開催回ごとにさまざまな国や地域のアートに注目するプログラム「RAN Focus」。第3回目となる今回は、フランスのアートにフォーカスします。サンキャトル・パリ 前アーティスティック・ディレクター、ジョゼ＝マニュエル・ゴンザルヴェスのキュレーションにより、インスタレーション、映像、パフォーマンスなどをご紹介します。国際的に活躍するベテランから新進気鋭まで参加作家の世代もさまざま、作品もバラエティーに富んでいます。

助成

在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ、アンスティチュ・フランセパリ本部

RAN Focus キュレーション

ジョゼ＝マニュエル・ゴンザルヴェス（サンキャトル・パリ 前アーティスティック・ディレクター）

RAN Focus 共同制作

CENTQUATRE-PARIS（サンキャトル・パリ）

RAN Focus 協賛

日本ロレアル株式会社



■ エリア別プログラム紹介 | 六本木ヒルズ

森 万里子

《オノゴロ・ストーンⅢ》

《オノゴロ・ストーンⅢ》は、『古事記』に記されたイザナギとイザナミによる国生みの神話に着想を得た作品です。宝玉で飾られた天沼矛（あめのぬぼこ）から海へと滴り落ちた潮が凝り固まり、オノゴロ島が生まれたという神話を背景に、国生み神話ゆかりの上立神岩を、現代的な素材によって再構築しています。

●日時：10月31日(土)10:00～11月1日(日)22:00

※11月8日(日)まで延長展示

●場所：六本木ヒルズ ウェストウォーク 2階

インスタレーション



展示風景：「ブルガリ カレイドス 色彩・文化・技巧」
国立新美術館（東京）2025年

UxU Studio

《Libido（リビドー）》

《Libido》は、鑑賞者の視点によって大胆に変化する、工業用の警告灯で構成されたインスタレーション作品です。

正面や真後ろから見ると、肉体的な誘惑を象徴する「一對の赤い唇」が浮かび上がります。そこから側面へと回り込むと、ライトが溶け合うように重なり合い、印象的な「ハート」の形へと変化。さらにそれ以外の角度から見つめると、形は崩れ、神秘的でエネルギッシュな「深紅の星屑の雲」へと姿を変えます。

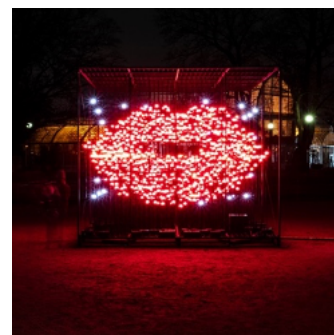
ひとつひとつのライトは、私たちの潜在意識に深く刻み込まれた、本能的な「危険のシグナル」として機能しています。しかし、その危険は私たちを思いとどまらせるものなのでしょうか？ それとも、逆説的にさらなる欲望を燃え立たせるものなのでしょうか？

視覚的な構造の変化を通じて、《Libido》は私たちに痛烈な問いを投げかけます。肉体的な渴望に突き動かされているにせよ、精神的な憧れに突き動かされているにせよ、自らの最も深い知覚と向き合うことには、常に本質的な不安とリスクが伴うのではないかと。

●日時：10月31日(土)17:00～11月1日(日)6:00

●場所：六本木ヒルズ ノースタワー

インスタレーション



UxU Studio

■ エリア別プログラム紹介 | 六本木ヒルズ

キム・ソンヘ 《シャンデリア》

キム・ソンヘは1982年、在日朝鮮人三世として東京に生まれました。複数の文化的アイデンティティの狭間で育ち、「自分はどこに属しているのか／どこからも属しきれていないのか」という感覚を抱え続けてきました。そうした経験が、廃棄されたぬいぐるみやおもちゃを自らに投影し、作品素材として扱ってきたきっかけとなりました。

一見すると可愛らしく、しかしよく見ると不安や異物感を湛えているその質感は、社会のなかで他者の視線に揺さぶられながら生きてきた感覚の反映でもあります。彼女にとって素材とは、単なる造形材料ではなく「拾い上げ・編み直す」という行為そのものに、物語と倫理を宿すものです。

- 日時：10月27日(火) 11:00～11月1日(日) 23:00
- 場所：六本木ヒルズ ヒルズカフェ/スペース

インスタレーション



リーロイ・ニュー 《エクトプラスチック・バレーテ》

フィリピンで古くから神秘や伝承と結びつけられてきた樹木「バレーテ (Baleté)」にインスピレーションを得たこのインスタレーションは、別名「ヴァンパイア」あるいは「絞め殺しのイチジク」とも呼ばれる、その独特な生態から着想を得ています。バレーテは他の樹木に巻き付きながら成長していくのが特徴ですが、本作ではその性質を、生きた幹や枝に巻き付けられた廃棄プラスチックを用いて表現しています。

樹木に絡みつくプラスチックは、プラスチックゴミが自然界に浸透し、それを侵食し始めている現代社会の象徴でもあります。このインスタレーションは幻想的でありながらも、どこか不穏さを秘めた風景を作り出しています。造形としての美しさの陰には、人々の廃棄物によって自然がじわじわと窒息させられているという現実が暗示されています。

- 日時：10月31日(土) 10:00～11月1日(日) 22:00
- 場所：六本木ヒルズ 66 プラザ

インスタレーション



Courtesy of Altro Mondo Creative Space.

横井勝 クリエイティブテクノロジスト：小林あつし 照明デザイナー：舟越利紗 制作協力：テレビ朝日

《A Light for the After-Human Stage 気配はもう一度、生まれる》

ハロウィンの夜、テレビ局から毛利庭園へのびる一本の光。そこにいない人の気配を届け続けてきた建物が、この夜は都市に光を向ける灯台になります。その照明は、音楽番組で多くのアーティストの瞬間を照らしてきたものです。しかし今夜、人は照らされません。光が触れるのは、人形師の記憶を宿した機械の手。手は光を受け止め、分け、揺らし、拡散させます。呼応するのはAIが聴いた誰のものでもない六本木の雑踏。そこに人はいなくても、記録され自動化された人間の痕跡が反復されます。それでも、気配はもう一度生まれるのでしょうか。

インスタレーション



横井勝 / テレビ朝日

- 日時：詳細はウェブサイトにて掲載予定
- 場所：毛利庭園

■ エリア別プログラム紹介 | 六本木ヒルズ

井口直人

《無題》

20 年以上にわたり、コピー機を用いた独自の表現を続ける井口直人。顔や身近なものをコピー機で写し取り、身体の動きによって生まれる歪みや偶然性を作品へと取り込みます。画面にはシールや作家お気に入りのさまざまな素材が重なり、鮮やかな色彩と躍動感あふれる世界が広がります。身体の動きと偶然が織りなす表現は、エネルギーに満ちた画面を生み出しています。

協力：株式会社ヘラルボニー

●日時：10月31日(土)10:00～11月1日(日)22:00

※10月27日より事前展示

●場所：六本木ヒルズ ノースタワー アートボード

インスタレーション



studio FLAT (スタジオフラット)

《studio FLAT Art supported by L'Oréal Japan》

studio FLAT が日本画家・露木恵子氏から受け継いだ画材を用い、伝統的な日本画の世界に新たな息吹を吹き込んだ、二面性を持つアート作品を展示します。伝統と多様な個性が織りなす色彩豊かな融合は、障がいの有無を超えたインクルーシブな未来を象徴しています。この「美の多様性」を表現する挑戦を、包摂性（インクルーシビティ）を推進する日本ロレアル株式会社がサポートします。

●日時：10月31日(土)10:00～11月1日(日)22:00

※11月8日まで延長展示

●場所：六本木ヒルズ ウェストウォーク 2 階

インスタレーション



5月9日東京新聞

種井小百合、装飾花監修：中島みゆき

《フローラ - 都市の糸(Flora - Au Fil des Villes)》

《Flora - Au Fil des Villes》は、港区とパリ 15 区の友好都市提携を背景に制作される、両都市の友好を象徴するファッション・アート作品です。生命の循環や豊穡を司るローマ神話の花の女神フローラと、港区の象徴であるハナミズキをモチーフに、「感謝」「継承」「文化交流」を表現しています。日本の伝統素材である綿蚊帳生地にハナミズキ柄をプリントし、フランス式立体裁断やオートクチュール技法、フランスのメティエ・ダールである花装飾を融合させることで、日本とフランス、それぞれの文化や記憶を纏う女神像を創出しています。パリ市在住の日本人アーティストによる花装飾を作品に取り入れるとともに、服飾の制作には港区の学生が参加することで、世代や国境を越えた学びと共創の場を生み出し、未来へ受け継がれる文化交流と人々の絆を可視化することを目指しています。

インスタレーション



種井小百合 / 中島みゆき

●日時：詳細はウェブサイトにて掲載予定

●場所：六本木ヒルズ ハリウッドビューティプラザ 1 階 ショーケース

■ エリア別プログラム紹介 | 六本木ヒルズ

出演：アオイヤマダ 音楽：小野龍一 衣装：ひびのこづえ
《フクオトカラダ・ROOT:根》

服が音を誘い、音が体を動かし、体が服の表情を変えます。『フク・オト・カラダ』は、3つの要素が互いに指揮し合う、境界線のないパフォーマンスです。パフォーミングアーティストのアオイヤマダが1枚ずつ服を脱ぎ、脱皮を繰り返しながら踊ることで、違う生き物に変異していく。森に住む巨大なカエル、そのカエルから産み落とされた赤い身体から、耳が5つの頭、黒いイボイボの半身、ピンク色の丸でできた体毛、放射状に広がる腰、5つの尾を持つ尻、柄柄の肌が生まれていく。そして最後は人となり、身体から根が生え、森に土に還る。小野龍一の音楽と共に生命の流れに思いを巡らす作品。

- 日時：10月31日(土) ※詳細はウェブサイトにて掲載予定
- 場所：六本木ヒルズアリーナ

パフォーマンス



上原勇（うへはらいさむ）

アオイツキ(アオイヤマダと高村月) ATSUSHI 亀山淳史郎
《Window of Tomorrow》

《Window of Tomorrow》は、変化する空の景色を舞台装置としたスペクタクル作品です。

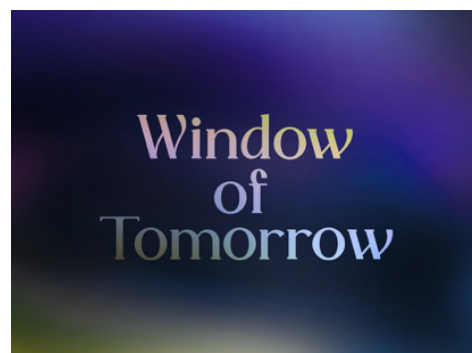
3年ぶりにオールナイトの芸術祭として復活する六本木アートナイトのために制作される本作では、六本木ヒルズの夜空とローズガーデンを舞台に一夜を通じてストーリーと体験が展開していきます。

日をまたぐ瞬間のパフォーマンス『Moon』にはアオイツキが、日の出の瞬間のパフォーマンス『Sun』にはATSUSHIが出演します。

それ以外の時間にもこの日だけの夜空の展望インスタレーションとして空間と体験を提供します。

「明日の窓」から見えるのは、境界なくうつろいゆく昨日・今日・明日であり、自然の変化と呼応するわたしたちのグラデーショナルな感性です。

パフォーマンス



作・演出：亀山淳史郎

パフォーマンス“Moon”出演：アオイツキ

パフォーマンス“Sun”出演：ATSUSHI

建築：國清尚之

音楽：Nao'ymt

衣装：Remi Takenouchi

企画・制作：株式会社 SIGNING

グラフィックデザイン：Hi! Design

- 日時：詳細はウェブサイトにて掲載予定
- 場所：六本木ヒルズ ローズガーデン

■ エリア別プログラム紹介 | 六本木ヒルズ

野口竜平 × Octopus ∞ Projects

《蛸みこし》

脚の一本一本に独立した知性を持つとされる蛸の心身を、人の集まりになぞらえ、個と集団の関係を探求する作品《蛸みこし》を、1000年後に残るコモンズとすることを目的に設立。制作方法のオープンソース化、各地で生まれる実践のアーカイブ、多様な専門分野や背景を持つ人々が自律的に関わり、新たな実践を生み出す文化的生態系の設計に取り組んでいる。

- 日時：詳細はウェブサイトにて掲載予定
- 場所：六本木ヒルズ 66 プラザほか

パフォーマンス



写真：黒坂ひな

六本木ヒルズ展望台 東京シティビュー

東京の中心に位置する、海拔 250 メートルの屋内展望台。東京タワー、東京スカイツリーなど、首都東京のランドマークはもちろん、天気の良い時は富士山までもが一望でき、「都市という名のアート」を鑑賞することができます。

※「六本木アートナイト 2026」開催期間中は、特別展示を予定しています。

※10月31日（土）は翌 6:00 まで開館延長

※「六本木アートナイト 2026」開催に伴い、一部の日時に特別料金を予定（詳細は東京シティビューウェブサイトにて後日発表）

インスタレーション



- 時間：10:00～22:00（※最終入館は閉館時間の 30 分前まで）
- 場所：東京シティビュー（六本木ヒルズ森タワー52 階）
- 入館料：一般 2,400 円(2,200 円)、学生(高校・大学生)1,700 円(1,600 円)、子供(4 歳～中学生)1,100 円(1,000 円)、シニア(65 歳以上)2,100 円(1,900 円)
- ※()内はオンラインチケットの料金

■ エリア別プログラム紹介 | 森美術館

「森万里子：燦燦」

美術、哲学、科学を統合させ、未来を展望する作品を発表してきた森万里子。国内の美術館としては24年ぶりの個展となる本展では、30年以上にわたる創作活動からインスタレーション、彫刻、ビデオ、写真、ドローイング、パフォーマンスなど約40点の作品を紹介します。

※10月31日(土)は翌6:00まで開館延長

※「六本木アートナイト 2026」開催に伴い、一部の日時で特別料金を予定（詳細は、森美術館ウェブサイトにて後日発表）

●日時：2026年10月31日(土)～2027年3月28日(日)
10:00～22:00

※開館時間は火曜日のみ17:00まで

※11月3日(火・祝)は18:00まで、2月23日(火・祝)は22:00まで

※最終入館は閉館時間の30分前まで

●場所：森美術館（六本木ヒルズ森タワー53階）

●入館料：[平日] 一般 2,800円(2,600円)、学生(高校・大学生) 1,700円(1,600円)、
中学生以下 無料、シニア(65歳以上) 2,400円(2,200円)
[土・日・祝日] 一般 3,000円(2,800円)、学生(高校・大学生) 1,800円(1,700円)、
中学生以下 無料、シニア(65歳以上) 2,600円(2,400円)

※()内はオンラインチケットの料金

企画展



森 万里子《巫女の祈り》
1996年ビデオ 4分42秒

「MAM プロジェクト 035：ブリー・ルエイ」

米国ニューメキシコ州サンタフェを拠点に活動するブリー・ルエイは陶の物質性とアーティスト自身の身体性、そして手作業に焦点を当て、パフォーマンス的な要素を取り入れた彫刻作品を制作してきました。代表的なシリーズに、自身の体重と同じ重さの粘土を押し広げ、引き裂き、掻き出すといった全身の動きによって成形した作品があります。本展では、滋賀県立陶芸の森でのアーティスト・イン・レジデンスを経て、日本の土や陶芸史についてリサーチを行い、その成果を自身の実践と結びつけた新作を発表します。

※10月31日(土)は翌6:00まで開館延長

●日時：2026年10月31日(土)～2027年3月28日(日) 10:00～22:00

※開館時間は火曜日のみ17:00まで

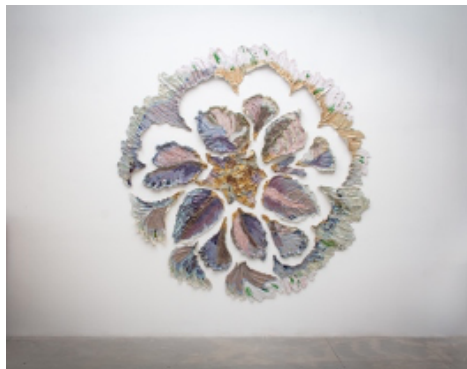
※11月3日(火・祝)は18:00まで、2月23日(火・祝)は22:00まで

※最終入館は閉館時間の30分前まで

●場所：森美術館（六本木ヒルズ森タワー53階）

●入館料：「森万里子：燦燦」のチケットで鑑賞可

企画展



ブリー・ルエイ
《身体の開花を翻訳する、130ポンド+130ポンド》
2026年
炆器、釉薬、金具
304.8×299.7×7.6 cm
画像提供：Night Gallery, Los Angeles
※参考図版

■ エリア別プログラム紹介 | 森美術館

「森アートアワード 2026 グランプリ受賞記念展：片山真理」
一般財団法人森現代芸術財団（MoriCAF）と森美術館は、「森アートアワード」の初代グランプリを受賞した片山真理の受賞記念展を共同開催いたします。

片山は、フィルム写真や刺繍・縫いものなどの手仕事を通じて、自身の身体の境界を拡張する可能性を社会へ提示してきました。その実践が同アワードで高く評価され、国際的なアートシーンでさらなる飛躍が期待されています。

本展では、受賞理由にもなったヴィクトリア&アルバート博物館（ロンドン）に収蔵された近作「tree of life」シリーズ（2024年〜）を中心とした作品を紹介します。

※10月31日(土)は翌6:00まで開館延長

●日時：2026年10月31日(土)～2027年3月28日(日)
10:00～22:00

※開館時間は火曜日のみ17:00まで

※11月3日(火・祝)は18:00まで、2月23日(火・祝)は22:00まで

※最終入館は閉館時間の30分前まで

●場所：森美術館 小企画展示室（六本木ヒルズ森タワー53階）

●入館料：「森万里子：燦燦」のチケットで鑑賞可

企画展



片山真理
《tree of life #001》
2024年

Cプリント（手焼き）

Courtesy: Galerie Suzanne
Tarasieve, Paris; Yutaka Kikutake
Gallery, Tokyo

※参考図版

■ エリア別プログラム紹介 | 東京ミッドタウン

中崎透

《Human Landscape in MIDTOWN》

人体をモチーフにした3点のライトボックスによる彫刻作品と、「MIDTOWN」と表記された看板作品による《Human Landscape in MIDTOWN》。タイトルは2020年の3点の彫刻作品を中心とした個展「Human Landscape」に由来する。2000年より看板をモチーフとした作品制作を展開する中、蛍光灯を骨格に見立て、ライトボックスによる人体彫刻を試みたところ、それらが山の稜線やここではないどこかの風景に見えたという。東京ミッドタウンの中にどのような風景が浮かび上がるだろうか。

- 日時：10月31日(土)～11月1日(日)
- 場所：東京ミッドタウン プラザ1階 キャノピー・スクエア

インスタレーション



「Human Landscape」2020年
撮影：大谷健二

長谷川仁

《胡桃カラス》

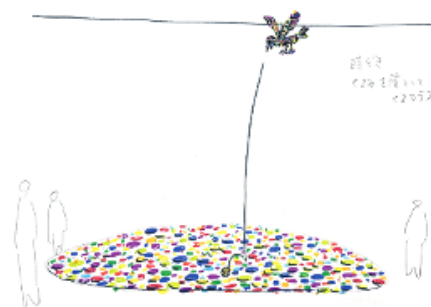
賢いカラスは胡桃を割るために人を利用することがあります。その気持ちを汲み取って協力してやると、少しでもカラスと心が通じたような気がします。

人と生き物は、地球の物質循環の中で互いにつながりながら生きています。日々の暮らしの中でそんなつながりを感じることができたなら、毎日が少しだけ生きやすくなるような気がします。

36色のドットは生物を構成する36種類の元素を表しています。それらの元素は常に循環し、私たちの身体を形づくっているのです。

- 日時：10月31日(土)～11月1日(日)
- 場所：東京ミッドタウン プラザ1階

インスタレーション



作品イメージ

柴田まお

《Camouflage Prints》

《Camouflage》は、葉や雲のように自然界に存在する迷彩構造を取り入れた彫刻作品である。作品は迷彩模様によって覆われ、目の前にありながらも、その輪郭は背景へと溶け込み、捉えにくい存在となる。

本作では、デジタルデータや複数の造形をもとに構成した迷彩を用いることで、彫刻の輪郭をあえて曖昧にし、現実と虚像の境界を揺らがせている。彫刻という物質的な存在でありながら、その見え方は見る位置や背景によって変化し、存在感もまた揺らいでいく。迷彩は本来、対象を背景へ同化させるための技術である。本作ではその性質を借りることで、存在と不在のあいだを行き来するような感覚を生み出し、鑑賞者に自身の認識や「見る」という行為そのものを問いかける。

- 日時：10月16日(金)～11月4日(水) 一部作品は5:00～23:00まで
- 場所：東京ミッドタウン ミッドタウン・ガーデン

インスタレーション



六甲ミーツ・アート芸術散歩 2023 beyond

■ エリア別プログラム紹介 | 東京ミッドタウン

さとうくみ子

《「一周まわる」六本木アートナイト 2026 ver. 》

“一周まわる”は、作家が立体作品「相棒」の入ったケースを背負い歩き、気になった場所で相棒を取り出し、一周する遊びである。ルールは簡単。定めた地点から出発しそこに戻る。ただそれだけ。相棒には一つ車輪が付いていて、作家が背中に付いた取手を押し歩く。素材や形を変えながら仲間を増やし、今回で6号目。六本木の煌びやかな夜にマッチした相棒と、くると楽しさをお裾分け。

- 日時：10月31日(土)～11月1日(日)
- ※パフォーマンス時間決定次第ウェブサイトにて掲載予定
- 場所：東京ミッドタウン プラザ1階

インスタレーション



作品イメージ

TAMA DESIGN UNIVERSITY

Division of PLAY DESIGN

(多摩美術大学 有志学生、高橋慶成、坂井治、遊舞舎)

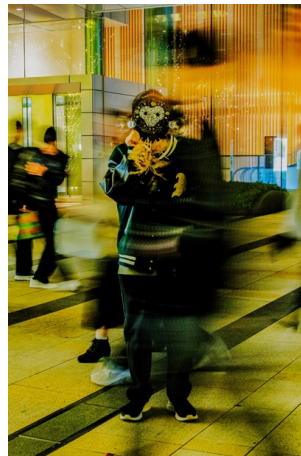
《都市で祭りは可能か vol.04 「作り装い舞い祈る」》

私たちは何のために「作る」ことができるのだろう。

人類史上、文化の原点／起源とも言える「祭」。様々な分断が進む現代社会の中で、「祭」から土地・素材・生き物・物語・コミュニティなどの関わり合いを一つ一つ捉えていくことで、デザインのあり方を問い直してみようという試みです。今回は、多摩美術大学の学生を中心に、六本木での取材や採取をもとに仮面や衣装の製作、踊りの創作、空間の組み立てまでを一貫して行い、アートナイトを舞台にオリジナルの「祭」を創出します。

- 日時：10月31日(土)
- ※パフォーマンス時間決定次第ウェブサイトにて掲載予定
- 場所：東京ミッドタウン ミッドタウン・ガーデン (予定)

パフォーマンス



■ エリア別プログラム紹介 | 東京ミッドタウン

2026 年度ファイナリスト

TOKYO MIDTOWN AWARD 2026 EXHIBITION

東京ミッドタウンが才能あるデザイナーやアーティストとの出会い、応援、コラボレーションを目指して、デザインとアートの2部門で開催する TOKYO MIDTOWN AWARD は、今年で 19 回目。応募総数 1,579 点から選出されたデザインコンペ 9 組、アートコンペ 6 組による全 16 作品を展示。また、作品展示期間中は、来場者の一般人気投票を実施し、「東京ミッドタウン・オーディエンス賞」を決定する。

- 日時：10月9日(金)～11月8日(日) 6:30～0:30
- 場所：東京ミッドタウン プラザ B1
- ※9月18日(金)～10月8日(木)
- TOKYO MIDTOWN AWARD 2026 Pre EXHIBITION
- アートコンペのファイナリスト 6 組の作品を先行展示
- ※10月16日(金)結果発表
- ※主催者からのリリース、オフィシャルサイト等を通じて発表

インスタレーション



昨年の展示の様子

GOOD DESIGN EXHIBITION 2026

70 年目を迎えた今年のグッドデザイン賞の全受賞作品を紹介する展示会。今のくらしや社会に必要な、ビジョンを持った優れた製品やサービス、プロジェクトなどのデザインを圧倒的規模で展示します。長くユーザーに愛され続けているプロダクト・建築・サービス・コンテンツなどに贈られる「ロングライフデザイン賞」の受賞作品もご紹介します。アトリウムには「GOOD DESIGN STORE TOKYO by NOHARA」の POPUP STORE が出店。最新の受賞製品や人気のグッドデザイン賞受賞製品を買うことができます。さらに、本年は 32 年の歴史をもつ「ひろしまグッドデザイン賞」が特別出展。見て、触って、買って、学んで、楽しめる、国内最大級のデザイン・イベントです。

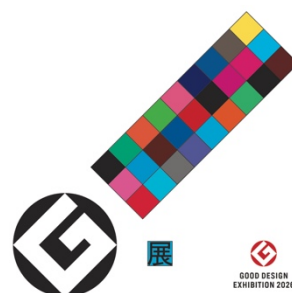
- 日時：10月31日(土)～11月4日(水) 11:00～19:00
(最終日は 18:00 閉場)
- 場所：東京ミッドタウン・ホール、東京ミッドタウン・カンファレンス、東京ミッドタウン・デザインハブ、アトリウム

同時開催 (アトリウム)：

GOOD DESIGN STORE TOKYO by NOHARA POPUP STORE

- 時間：11:00～20:00 (初日は六本木アートナイトにあわせて 22:00 閉場・最終日は 18:00 閉場)
- ひろしまグッドデザイン賞特別展示
- 時間：11:00～19:00 (最終日は 18:00 閉場)

企画展



2026年度グッドデザイン賞受賞展

10月31日(土)～11月4日(水)
11:00～19:00 (最終日のみ18時閉場)
東京ミッドタウン(東京都港区赤坂9-7-1)
入場無料
※本展覧会は、入場料・観覧料を徴収しません。

■ エリア別プログラム紹介 | 国立新美術館

ロドリゲス=伊豆見・彩

《交差的な未来のためのコンセプト・フラッグ》

現在では街頭広告などでよく使用される「のぼり旗」は、かつて合戦で敵と味方を識別するために普及したと言われ、日本における軍旗の伝統的な形式の一つです。本作は、戦時中の日本軍の飛行機のデザインから着想した墨と水彩で描いた絵を、のぼりとして複製した作品です。多くの旗が風に吹かれて波打つようにはためく景色は、単一の国家や民族ではなく、複数の文化や歴史の交差から生まれる多層的なアイデンティティを表しています。

●日時：10月30日(金)～11月16日(月) 10:00～18:00

※10月31日(土)のみ正門から正面入口前までを終夜開放、

11月4日(水)、11月10日(火)は休館

※毎週金・土曜日は 20:00 まで

●場所：国立新美術館 正面入口前（屋外）

インスタレーション



参考画像

《Noboru》2021 年、提供：紅桜公園芸術祭 2021
「交わる水-邂逅する北海道/沖縄」

「ルーヴル美術館展 ルネサンス」

15-16 世紀にヨーロッパ各地で隆盛したルネサンス美術の本質的特徴を、ルーヴル美術館の所蔵品から選りすぐられた 50 点余りの絵画、彫刻、版画、工芸の名品を通して、浮き彫りにしようとする展覧会です。初来日となるレオナルド・ダ・ヴィンチの傑作《女性の肖像》、通称《美しきフェロニエール》をはじめ、ルネサンス期を特徴づける多彩な作品を紹介します。

●日時：9月9日(水)～12月13日(日) 10:00～18:00

※毎週火曜日休館、ただし 9 月 22 日(火・祝)、11 月 3 日(火・祝)、

12 月 8 日(火)は開館、11 月 4 日(水)は休館

※毎週金・土曜日は 20:00 まで

※入場は閉館の 30 分前まで

●場所：国立新美術館 企画展示室 1E

●入館料：一般 2,400 円(2,200 円)、大学生 1,400 円(1,300 円)、
高校生 1,000 円(900 円)、中学生以下は入場無料

※()内は前売料金

※前売券・当日券は 9 月 9 日(水)～12 月 6 日(日)まで有効

※12 月 7 日(月)～12 月 13 日(日)は日時指定制。詳細は後日、展覧会ウェブサイト、
展覧会公式 SNS で発表

※障害者手帳をご持参の方（付添の方 1 名含む）は入場無料

企画展



■ エリア別プログラム紹介 | 国立新美術館

「少女漫画・インフィニティ 萩尾望都×山岸凉子×大和和紀 三人展」

萩尾望都・山岸凉子・大和和紀——少女漫画の地平を切り拓き、時代を超えて読み継がれる名作を生み出してきた三人の画業をたどる展覧会を、国立新美術館開館 20 周年を記念して開催します。1970 年代、少女漫画は飛躍的な進化を遂げました。その中心にいた三人の創作の軌跡を、デビュー初期から現在に至るまでの作品でたどります。美しいカラーイラストや心に刻まれる名場面の原画、さらに貴重な資料の数々を通して、その奥深い表現世界に迫ります。なお、本展は国立の美術館で開催される初の大規模な少女漫画展です。

●日時：2026 年 10 月 28 日(水)～2027 年 2 月 8 日(月) 10:00～18:00

※毎週火曜日休館、ただし、11 月 3 日(火・祝)、12 月 8 日(火) は開館、11 月 4 日(水)は休館

※年末年始（2026 年 12 月 28 日(月)～2027 年 1 月 5 日(火)）休館

※毎週金・土曜日は 20:00 まで

※入場は閉館の 30 分前まで

●場所：国立新美術館 企画展示室 2E

●入館料：一般 2,200 円(2,000 円)、大学生 1,000 円(800 円)、高校生 500 円(300 円)、中学生以下は入場無料

※()内は前売料金

※障害者手帳をご持参の方（付添の方 1 名を含む）は入場無料

企画展



<公募展> 「第 119 回 日展」

●日時：10 月 30 日(金)～11 月 22 日(日) 10:00～18:00

※毎週火曜日休館、ただし、11 月 3 日(火・祝)は開館、

11 月 4 日(水)は休館

※入場は 17:30 まで

●場所：国立新美術館 展示室 1A, 1B, 1C, 1D, 2A, 2B, 2C, 2D, 3A, 3B

●入館料：一般 1,500 円、団体 1,200 円（20 名以上）、トワイライトチケット（午後 4 時以降の時間限定入場券）一般 700 円

※大学生以下・障害者手帳をお持ちの方及び付添者 1 名まで 無料

公募展



■ エリア別プログラム紹介 | サントリー美術館

「逸翁美術館コレクション 蕪村・呉春と茶の湯の名品」

逸翁美術館は、阪急東宝グループ（現・阪急阪神東宝グループ）の創業者として知られる近代日本を代表する実業家・小林一三（1873年～1957年）の雅号「逸翁」を冠して、1957年に大阪・池田市に設立されました。人々と美を分かち合う姿勢に貫かれた5,500件におよぶコレクションは、逸翁の多方面での豊かな業績と進取の気風に富む人間性を反映し、古筆切、茶道具から与謝蕪村・呉春の絵画に至るまで実に多岐にわたります。今回は、その選りすぐりの名品が一堂に会する待望の展覧会となります。

●日時：9月16日(水)～11月8日(日) 10:00～18:00

※10月31日(土)は21:00まで

※金曜日および11月7日(土)は20:00まで

※入館は閉館の30分前まで

※毎週火曜日休館(9月22日(火・祝)、11月3日(火・祝)は開館)

●場所：サントリー美術館 展示室

●入館料：一般 1,700円(1,500円)、大学生 1,200円(1,000円)、高校生 1,000円(800円)、中学生以下無料

※()内は前売料金



企画展

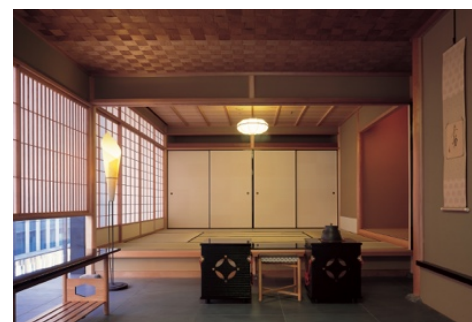
夜の呈茶席（仮称）

通常非公開の茶室「玄鳥庵」にて、六本木アートナイト限定で夜の呈茶席を開催します。六本木の夜景を望む茶室で、お茶・お菓子をお楽しみください。立礼席（椅子席）での呈茶なので、靴のまま気軽にご参加いただけます。

●日時：10月31日（土）17:30～20:30

●場所：サントリー美術館 6階茶室「玄鳥庵」

●参加費：決定次第、ウェブサイトにて掲載予定※別途要入館料



体験プログラム

■ エリア別プログラム紹介 | 21_21 DESIGN SIGHT

「方丈記に学ぶ -生きるを編み直す小さな建築-」

13世紀初頭に鴨長明によって書かれた随筆『方丈記』には、移ろい続ける世の無常を前にした人間の生き方が記されています。彼が暮らした庵は現存しませんが、その言葉は時代をこえて度あることによみがえり、多くの実践を生み出してきました。展覧会ディレクターに建築家・塚本由晴を迎え、『方丈記』に記された小さな建築「方丈の庵」を起点に、現代の暮らしと構築環境を見つめ直します。

●日時：2026年8月28日(金)～2027年1月11日(月・祝)

10:00～19:00 (入場は18:30まで)

※10月31日(土)は22:00まで開館延長 (最終入館 21:30まで)

※毎週火曜日休館 (9月22日(火・祝)、11月3日(火・祝)は開館)

※その他休館日は11月21日(土)～11月23日(月・祝)、年末年始
(2026年12月27日(日)～2027年1月3日(日))

●場所：21_21 DESIGN SIGHT ギャラリー1&2

●入場料：一般 1,700 円、大学生 800 円、高校生 500 円、中学生以下無料

企画展



■ エリア別プログラム紹介 | 六本木街なかプログラム

奥山太貴

《現在地 feat.六本木アートナイト》

イベントの開催を伝える LED のネオンサインです。祝祭感をまとった派手なインフォメーションは、目的地への誘導であり、祭りへの入口であり、芸術への招待であり、そのときここに到着した記録でもあります。うたかたの夜に力強く立ち上がった発光体のもと、人々が集まり、明滅のループの中で永遠と刹那を感じます。今ここは、六本木アートナイトです。

協力：mud Inc. / moult Inc.

- 日時：10月31日(土)17:00～11月1日(日)6:00
- 場所：六本木交差点

インスタレーション



Photography: Takeshi Asano

サエボーグ

《I WAS MADE FOR LOVING YOU》

サエボーグは、半分人間で半分玩具の不完全なサイボーグとして、自らの皮膚の延長となるラテックス製のボディスーツを自作し、装着するパフォーマンスを行っています。本作は、人間と動物の関係性を軸に、「ケア」の視点から展開されるパフォーマンス作品です。涙を流しながらヨロヨロと歩く弱った犬は、六本木の街角に放置されたかのように佇み、行き交う人々の視線の中に置かれています。「愛するために生まれてきた」という感覚を観客の中に立ち上げ、言葉を介さない身体的コミュニケーションがもたらす、ケアや癒しの可能性を探ります。

- 日時：10月31日(土)17:00～11月1日(日)6:00
- 場所：ラピロス六本木

パフォーマンス



写真：高橋健治
画像提供：トーキョーアーツアンドスペース

Mikiko Kamada

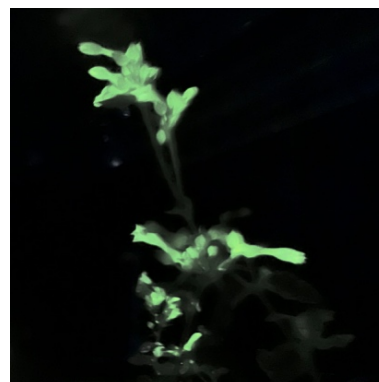
(展示協力：株式会社 LEP、大阪大学 産業科学研究所)

《A Dark Night》

本作は、遺伝子組換え技術によって生まれた「光る植物」を媒介に、都市の夜と人間の知覚を再発見するインスタレーションです。鑑賞者は暗闇の中で暗順応し、生命の放つ微かな光へ歩み寄ることで、「見る」という行為が自らの意思と身体によって成立する知覚であることに気づきます。また、研究者の思想や倫理観、未来への展望を口伝で共有する新たなサイエンスコミュニケーションを試み、技術と人間がともに描く未来について対話する場を創出します。

- 日時：10月31日(土)17:00～11月1日(日)6:00
- 場所：ピラミデビル

インスタレーション



mk

■ オープンコール・プロジェクト採択作品

OORT (オールト)

《Deep Space Journey (ディープ・スペース・ジャーニー)》
ひとつの光が生まれ、それが広がり、分かれ、増え、集まり、熱を帯び、恒星となり、星団や銀河、そして宇宙全体が形作られてゆきます。その宇宙という途方もない空間を、原子核という極小のスケールから、銀河さえ小さく見える深宇宙までのスケールを、踊りから生まれる「揺らぎ」と「振動」をエネルギーに変えて、旅をしてゆく物語です。

- 日時：詳細はウェブサイトにて掲載予定
- 場所：六本木ヒルズアリーナ

パフォーマンス



OORT

Co.山田うん

《寝相》

六本木で眠ってみる。

街の明るさは夜になっても消えず、人の流れも、欲望も、疲労も、視線も、静まりきることなく街の中に残り続けている。

夜というものは、ただ暗くなる時間のことではない。

昼間にははっきりしていた輪郭に緩みをもたらし、街の奥に沈んでいた気配を立ち上がらせ、別のかたちで身体を持ち始める。

《寝相》は、そのような都市と身体のあいだに生じる微細な「揺れ」を、二つのベッドと二人の身体によって捉えるインスタレーション・パフォーマンスである。

本作は、夜の高揚や祝祭性を強調するのではなく、眠りに入れない街が抱えている疲れ、緊張、無意識の身じろぎに目を向ける。

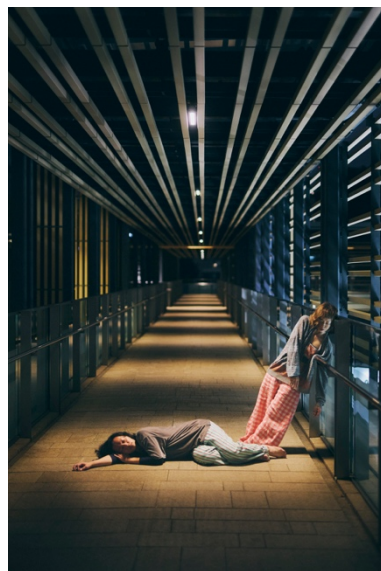
六本木の夜に置かれた身体は、揺れ、ずれ、止まり、また戻る。

その反復は、都市に滞留する時間や欲望を静かに攪拌し、眠れない街のための体操のように現れる。夜の光の中でこそ、この小さな揺れは、都市の別の深さとして見えてくる。

眠るための身体と、眠れない街のあいだに生じる、眠りそこねた都市の身振りを提示する。

- 日時：詳細はウェブサイトにて掲載予定
- 場所：東京ミッドタウン プラザ 1 階

パフォーマンス



鈴木ユキオプロジェクト

《風景とともに》

風景は常に同じようにそこにあるようで、時間・季節・出来事・生き物と共に刻々と変化しています。変わり続ける風景にカラダを置き、私たちのカラダ時間を風景に合わせることで、広がっていく風景を再発見し、その風景に居合わせたすべての人と共に、「今」というかけがえのない時間・空間を共有するダンスプロジェクトです。

- 日時：詳細はウェブサイトにて掲載予定
- 場所：東京ミッドタウン プラザ 1 階、六本木ヒルズアリーナ

パフォーマンス



Julijia Zitluhina

■ オープンコール・プロジェクト採択作品

うきも-project-

《うきふね》現代サーカス作品

風、光、石…。

自然にある要素と身体表現で、新しい風景が生まれます。

瀬戸内の自然とともに暮らすアーティストたちが、静けさや余白をたよりに、身体を通して自然と呼吸を交わします。

シルホイールはゆるやかな円を描き、大旗は風とともにたゆたいます。舞台に据えられた庵治石は、語らず、ただそこに在ることで、見る人の心に山や海、時間の記憶をそっとひらきます。

素材、空間、身体、観客。そのすべてが境目なくゆるやかにつながり、一つの風景をつくり出していきます。

- 日時：詳細はウェブサイトにて掲載予定
- 場所：東京ミッドタウン プラザ 1 階、六本木ヒルズアリーナ

パフォーマンス



宮脇慎太郎

tamanaramen

《DANCE IS BREATHING》

本作は、踊りと呼吸、そして変化し続ける身体をテーマにしたオーディオビジュアル・パフォーマンスである。身体を「記憶や感情が一時的に宿る器」と捉え、万物流転の思想を軸に、変わりゆくものと残り続けるものの境界を描く。咲き散る植物や液体のように変容する有機的な映像、ヨーロッパで記録した都市の断片を重ね、アンビエント、IDM、テクノを横断するサウンドと融合。反復するビートと踊りを通して観客の知覚と身体感覚を揺さぶり、個人的な記憶と集団的な陶酔が交差する、呼吸し続ける身体のためのオーディオビジュアル・リチュアルを立ち上げる。

- 日時：詳細はウェブサイトにて掲載予定
- 場所：TOHO シネマズ 六本木ヒルズほか

パフォーマンス



BASSE PLANTE(ベースプラント)

《たった一本のコントラバスで紡ぐリアルタイム多重録音のパフォーマンス》

たった一本のコントラバスとルーパーだけで、リズム、ハーモニー、メロディのすべてを、その場でリアルタイム多重録音しながら演奏する、圧巻のソロパフォーマンス。クラシック、ポップス、ブラック・ミュージックへの深い造詣と、確かなテクニックで、コントラバスの可能性を最大限に引き出した、まだ誰も聴いたことのないボーダーレスなグルーヴサウンドを演奏します。

- 日時：詳細はウェブサイトにて掲載予定
- 場所：六本木ヒルズ ウェストウォーク 2 階ほか

パフォーマンス



©2026 Katsura Records

■ オープンコール・プロジェクト採択作品

国歌ジュークボックス KENT

《歌う地球》

世界地図を身体にまとい、来場者に出身国や行きたい国へ光るシールを貼ってもらう。貼られた国の国歌を即座に独唱し、六本木に集う人々のルーツや記憶を地図上に可視化する。地球そのものに国境はないという視点から、土地ごとの文化の違いを知り、楽しむことを再認識する参加型パフォーマンス・インスタレーション。

- 日時：詳細はウェブサイトにて掲載予定
- 場所：街なか各所

パフォーマンス



国歌ジュークボックス

epow6oow (モーグモード)

《life:cycles》

《life:cycles》は、演奏者の意思と電子楽器が生み出す偶然が交わることで、その瞬間にしか存在しない音のループを演奏するライブ作品です。明確な物語や歌詞をもたない音楽が、聴く人それぞれの記憶や経験と結びつき、心の中に異なる風景が生まれます。六本木アートナイトという、様々な人や場所との偶然の出会いが生まれる場で、その日・その場所・その人だけの記憶として残る音楽体験を目指します。

- 日時：詳細はウェブサイトにて掲載予定
- 場所：街なか各所

パフォーマンス



モーグモード

■ 六本木アートナイト作品公募企画「オープンコール・プロジェクト」とは

本プロジェクトは、公募により選出されたアーティスト・クリエイターの作品を、会期中の六本木の街なか（公共空間・商業施設等）で展開する参加型プログラムです。インスタレーションやパフォーマンスなど多様な表現が、メインプログラムとともに街全体をアートで彩ります。

審査を経て選出された作品は、国内外から訪れる来場者に向けて公開され、新進アーティストが広く作品を発信する機会となっています。

六本木アートナイトでは、2015年より作品公募企画「オープンコール・プロジェクト」を実施しており、2025年までの11年間に101作品を公開いたしました。

■ その他

インクルーシブ・アート・プログラム

六本木アートナイトをさまざまな人たちと巡るツアーとオンライン鑑賞会を開催します。会場を散歩しながら作品鑑賞をしたり、参加者同士で対話をしながら作品を楽しみましょう。

企画協力：NPO 法人エイブル・アート・ジャパン

●開催日：10月31日(土)、11月1日(日)

※詳細時間は公式サイトにて掲載します。

●場所：六本木アートナイト会場各所

●料金：無料／要事前申し込み

※申し込み方法等の詳細は、公式サイトにて告知します。



昨年の様子

英語ガイドツアー：光と影のフラヌール（都市観察者）

海外から来日した方や多様な文化背景を持つ参加者とともに、英語を用いて作品を巡るアートツアーを実施します。19世紀パリで生まれた、目的を持たず都市を歩き、街を「観察」する

「Flâneur（フラヌール）」の視点を手がかりに、六本木の街とアート作品を巡ります。今年は特に、都市や作品を照らす「光」に着目。作品をじっくりと見つめ、感覚を研ぎ澄ます時間を設けながら、参加者同士の対話を通して鑑賞を深めていきます。街全体をひとつの「屋根のない美術館」として捉え、六本木に残る歴史や地形、建築、光と影を観察しながら歩くことで、普段とは異なる都市の姿を発見します。時にはアーティストとの偶然の出会いも楽しみながら、夜の六本木を新たな視点で読み解いていきます。

●開催日：①10月31日(土) 18:00～19:30

②10月31日(土)22:00～23:30

③11月1日(日) 14:00～15:30

●場所：六本木アートナイト会場各所

●料金：無料／要事前申し込み

※申し込み方法等の詳細は、公式サイトにて告知します。



「六本木アートナイト 2026」開催概要

正式名称

六本木アートナイト 2026

開催日時

2026（令和8）年10月31日（土）～11月1日（日）

<コアタイム>31日（土）17:00～1日（日）6:00

※インスタレーションは、10月31日（土）10:00～11月1日（日）22:00の時間帯にご覧いただけます。

開催場所

六本木ヒルズ、森美術館、東京ミッドタウン、サントリー美術館、21_21 DESIGN SIGHT、
国立新美術館、六本木商店街、その他六本木地区の協力施設や公共スペース

入場料

無料（但し、一部のプログラム及び美術館企画展は有料）

主催

東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、港区、六本木アートナイト実行委員会
（国立新美術館、サントリー美術館、東京ミッドタウン、21_21 DESIGN SIGHT、森美術館、森ビル、
六本木商店街振興組合 ※五十音順）

ウェブサイト

<https://roppongiartnight.com/>

お問い合わせ

六本木アートナイト実行委員会 ハローダイヤル：050-5541-8600（9:00～20:00）

助成

文化庁、在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ、アンスティチュ・フランセパリ本部、
台湾文化部

公式 SNS アカウント

Facebook： <https://www.facebook.com/RoppongiArtNight/>

X： https://x.com/r_artnight

Instagram： https://www.instagram.com/roppongi_art_night_official/

YouTube： https://www.youtube.com/c/rantv_roppongiartnight

「六本木アートナイト 2026」開催概要

「六本木アートナイト 2026」は、都市を舞台とする新たな文化芸術祭「ARTE TOKYO（東京国際文化芸術祭）」のパートナープログラムです。



「ARTE TOKYO」は、秋から冬にかけて東京で催されるアート、演劇、音楽、イルミネーション、エンターテインメントなど多彩なプログラムを結び合わせ、ひとつひとつの輝きを都市全体の魅力として描き出すフェスティバルです。初開催となる 2026 年は、臨海エリア、日比谷・丸の内エリア、代々木・渋谷エリアをコアエリアに、様々な催しと連動しながら、公園や水辺などの街なかで東京 2020 大会文化プログラムのリバイバルをはじめとする多数のアートやエンターテインメント企画を展開します。

- 開催期間：2026 年 10 月 10 日(土)～12 月 31 日(木)
- 主催：東京都、東京国際文化芸術祭実行委員会（委員長 青柳正規）
- 公式 WEB サイト：<https://artetokyo.jp/>

※実施内容等につきましては、諸般の事情により予告なく変更または中止する場合がございます。変更が生じる場合は、公式ウェブサイトや公式 SNS 等で改めてお知らせいたします。

※最新情報は順次、公式ウェブサイトや公式 SNS にて発表してまいりますので、是非ご注目ください。

＜本件に関するお問い合わせ先＞

六本木アートナイト広報プロモーション事務局（サニーサイドアップ内）

担当：岩崎（080-4149-8178）、小西（080-7637-4510）、吉野

TEL：03-6894-3200 FAX：03-5413-3050 E-mail：roppongiartnight_pr@ssu.co.jp